

1. ベトナムのヤオ

ベトナムでは総人口85,846,997 (2009年)のうち85%の73,594,427人が主要民族のキン族。
ヤオ族=Dao (ザオ) は、751,067人で総人口の0.87%。

(1999年には総人口763,231,73人、ヤオ族620538人で、0.81%)

少数民族としては、苗族=モン (Mong, H'mong) に次ぐ8番目。

ザオはほとんど北部の山間に居住。

■ベトナムのヤオは中国やラオス・タイにも広がるミエン (Mien) 系、ランティエン系 (Mun ☆印) のほかに、

・ミエン系ではあるが他の国にはいないザオ・ティエン Dao Tien (◎印)。

・ザオ・クアンチェット^{③⑥} (細い袴の瑶) やザオ・クアンチャン^{③⑤} (白袴の瑶)

・ザオ・タイン・イ^{③⑦} は中国海南島に近縁グループ。

・ヤオ系の言語を話すパーテン Pa Then^{②⑧} (人口 6811人) は一民族として登録。

■ランテン系ヤオと思われるサンチー San Chi族^{①⑧②⑩}は、ヤオではなくサンチャイSan Chay 族に分類されている。自分たちはザオでもサンチャイでもないとの分離認定を希望。

■中国との国境に近い地域に居住するグループには、国境をまたいでほぼ同じ衣装を着用したり、婚姻関係があるものも。

2. ヤオの衣装の多様性

■女性の頭の装いが、瑶の地域グループを見分けやすい。

■ラオカイ省やライチョウ省のミエン系のヤオでは村ごとに女性の装いに違いがみられるほど。

■ベトナム北西部や雲南西部のミエン系ヤオの女性は頭髪を頭頂部以外抜いている。

■ランテン系は女性が首に長い糸の房をつけているグループが多い。
頭上に金属の飾りものや鬘のグループも。

■衣文化は代々継承してきた部分もあれば、近隣の民族からの影響を受けた部分もある。

3. ヤオ衣装の形の特徴

■多くのヤオに見られる衣装様式；

男性： 長ズボン 長袖付き腰丈シャツ型式（前開き・脇開き・ボタン留め）
頭巾

女性： 長ズボン 長袖付き膝下丈ガウン形式（垂首・衽なし または 脇開き）
帯、頭巾、脚絆、胸エプロン、（腰エプロン、肩エプロンのなもの）

■東南アジアでは、男性も女性も長方形の布を巻き付ける様式の衣装や、長方形の布の両端を縫い合わせて筒状にした衣装のほうがはるかに一般的。

■ベトナムでは多数民族であるキン民族やその影響を受けたTay民族の男性が伝統的にズボン・シャツ形式の衣装だが、東南アジアのなかでは、少数派。

■女性の長ズボン形式は、東南アジアや中国南部の少数民族では例外的。
ベトナム女性の衣服も19世紀までは筒状のスカート。

■一部のヤオの女性は襷かギャザーのある巻きスカート。

・ベトナムのザオ・ティエン・・・緞染めギャザー膝丈巻きスカート

・広西壮族自治区北部の白褲瑶・・・樹脂防染ブリーツ膝丈巻きスカート

・広西壮族自治区北東部の紅瑶・・・無地ギャザー膝丈巻きスカート

同じ民族ルーツをもつという苗族（メオ・Hmong・Mong）族では多数のグループにみかけられる。中国南部の彝族やブイ族の一部などにも。

■上着の形式 細部

・衽の無い着物形式。脇に腰までのスリットがある。19世紀のキン族の女性上衣 Ao Tu T hanとおなじ。

・脇明きの女性上衣は、19世紀以降のキン族のアオザイにと同じ。
キン族の衣装形式自体、漢民族の影響が強い。

4. 素材・・・木綿 刺繍には絹

かつては、苧麻・大麻・葛。木綿は14世紀以降

5. 織機・・・古代的な腰機2種。近代的腰機一種、平織り用高機

6. 民族染織の衰退